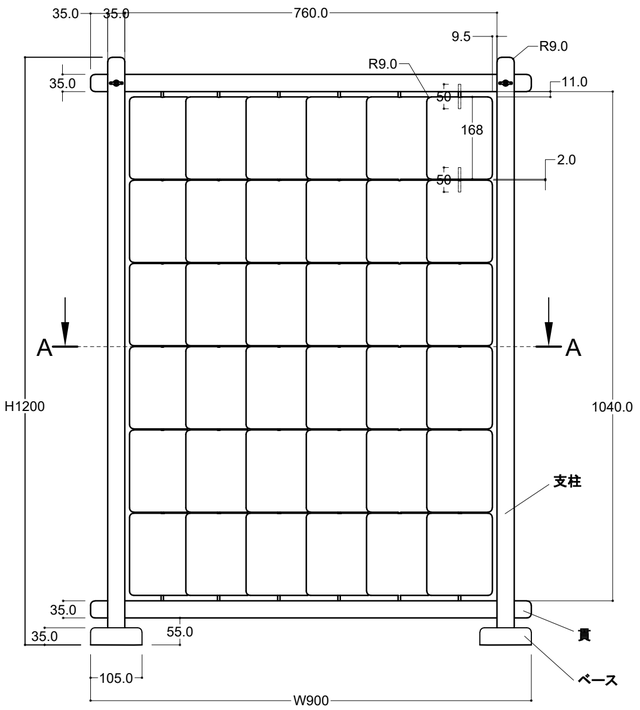
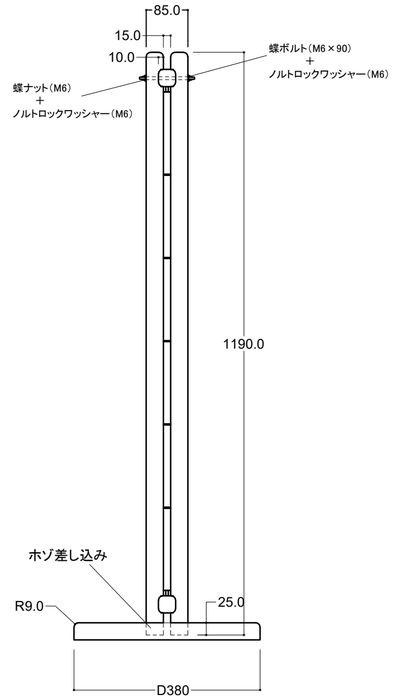


A - A







組立てに接着剤を使用しない、ノックダウン式のパーテーション。上下の貫に、木ダボを取り付けたパネル板を順に取り付けていく。支柱と貫の端部に設けた欠き込みを互いに嵌め合わせ（相欠き構造）、支柱上部の 2 カ所を蝶ボルトで固定する。最後に支柱下部をベースに差し込み、組立てが完了する。

このパーテーションは、パーツ単位での構成とすることで、万が一、木材に割れや破損が生じた場合でも、当該部材のみを交換できる構造としている。「壊れたら買い替える」ではなく、必要なパーツだけを交換する。使い続けることを前提に、無駄をなくすデザイン。

日本の伝統的な社寺建築では、釘や接着剤を多用せず、木と木を噛み合わせる伝統工法によって建物を組み上げてきた。そこには、傷んだ部材を差し替えながら、建物を長く使い続けるという考え方がある。hinoka もまた、そうした日本の伝統的なものづくりの思想を大切にし、「直しながら、長く使う」ことをデザインに取り入れている。





hinoka

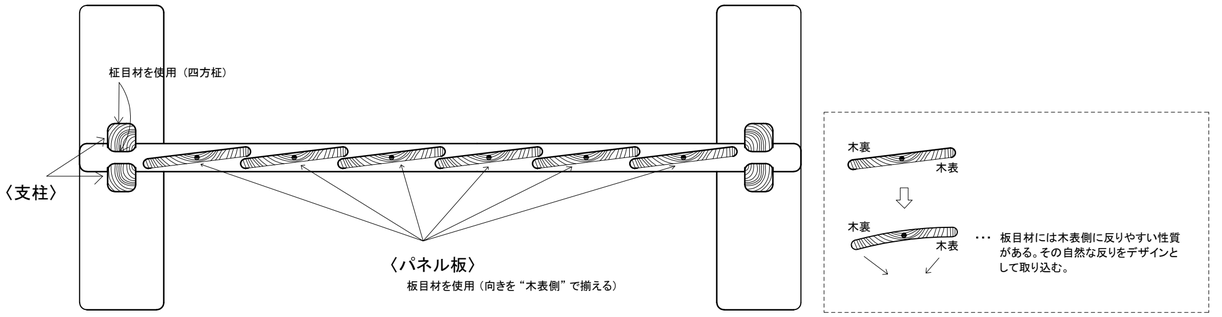
【製品仕様】
寸法：W900 × D380 ×H1200
素材：京都府産 檜
塗装：無塗装

『木は狂うもの』

木材特有の反りや捻じれといった「狂い」は、木が生きている証である。「hinoka」はあえて無塗装で仕上げることで、そういった木材の性質を抑えるのではなくデザインとして取り込みたいと考えた。そして、時間とともに深まる檜の色味や空間を満たす香りの移ろいを楽しむ。
木を知り、木を活かす。日本ならではの ものづくりの思想を体現した「hinoka」を提案する。

『木材そのものの性質を活かす』

パーテーションの構造を担う「支柱」と「貫」には、柾目（四方柾）の檜材を使用。木目がまっすぐ通る四方柾材を用いることで、構造部材としての安定性を高めつつ美しさとの両立を図る。一方、「パネル板」には豊かな木目を持つ板目の檜材を使用。板目材は、木表と木裏で収縮率が異なるため、時間の経過とともに木表側へ反る性質がある。その性質を利用し、すべてのパネル板の木表・木裏の向きを揃えて配置。経年変化によってパネルが同一方向に反ることで、全体に美しい波状のリズムと柔らかな陰影が生まれる工夫を施した。





『風向と光量の調整が可能』

檜の香りを楽しめるよう、風が通り抜ける構造に。
各パネル板は独立して 360 度回転するため、設置環境に合わせて日差しや視線、風の向きを自由に調整ができる。
また、無塗装であるため、塗装仕上げに比べて檜本来の香りや風合いを強く感じられる。



